

脳と神経 第14巻 総目次

1962年(第1号～第12号)

〔特集〕

〔定位脳手術〕

- 定位脳手術……………陣内伝之助…………5(1)
 定位脳手術について……………橋本博太郎…………13(1)
 定位脳手術について……………半田 肇…………17(1)
 パーキンソニズムに対する大脳脚切
 截の経験……………喜多村孝一…………25(1)
 強力集束超音波による定位脳手術
 ……………岡 益尚…………27(1)
 集束超音波の脳外科的応用
 石井 稔・竹内 達夫……………33(1)
 コロイド状アイソトープによる定位
 的脳破壊に関する研究
 星野 列・江崎 治夫・福永 献…………35(1)
 定位脳手術—不随意運動症を中心と
 して—……………祖父江逸郎…………39(1)
 不随意運動症について—神経病理学
 の立場から—……………白木 博次…………43(1)
 錐体外路疾患に対する定位脳手術に
 ついて—生理学の立場から—
 ……………島津 浩…………49(1)
 動物における定位脳手術の固定につ
 いて……………高木健太郎…………53(1)
 不随意運動症及び各種脳疾患に対す
 る定位脳手術—竹林 弘・駒井 則彦…………57(1)
 総 括……………竹林 弘…………63(1)

〔痛み〕

- 前側索切截について……………久留 勝…………81(2)
 前側索切截について……………都留美都雄…………96(96)
 腹圧反射より見た内臓知覚の問題
 ……………山本信二郎…………99(2)
 前側索切截について……………木村 忠司…………105(2)
 三叉神経痛に対するアルコール注射
 療法後の神経麻痺性角膜炎の発
 生に関する臨床的ならびに実験
 的研究
 岡本 英三・岡 益尚・松岡 健三
 武田 義章・徳永 篤司……………109(2)
 頭痛に於ける大耳介神経遮断につい
 て
 青木 秀夫・東 健一郎・徳長 雄幸…………113(2)
 四肢切断患者の断端痛に関する臨床
 的並びに神経病理組織学的研究
 猪狩 忠・東海林 博・湯浅 昭…………117(2)

総 括……………小沢 凱夫・植木 幸明…………120(2)

〔てんかん〕

- 〔特別講演〕 The March of Focal
 Motor Epilepsy……………A. E. Walker…………257(4)
 A Discussion of and a Comment
 on Dr. Walker's Speech……………林 謙…………270(4)
 Discussion to Dr. Walker's
 Speech……………陣内伝之助…………272(4)
 Discussion to Dr. Walker's Speech
 : Experiences of Reticulotomy
 in Epilepsy……………佐野 圭司…………275(4)
 実験的痙攣発作とその波及……………堀 浩…………281(4)
 てんかんにおける局所性 Discharge
 と臨床発作との関連について
 ……………和田 豊治…………285(4)
 皮質脳波・深部脳波よりみた Epilepsy
 ……………渡辺 茂夫…………290(4)
 てんかん発作の面からみた大脳半球
 剔除術例の遠隔成績
 ……………中井 昂・斉藤 佐内…………295(4)
 てんかん小発作棘-徐波結合の終夜
 記録時におけるポリグラフ的解
 析
 田塚 修治・徳田 良仁・風祭 元
 菊地 貞雄・藤森 正大……………299(4)
 発熱のてんかん性発作反射におよぼ
 す影響—熱性てんかんに関連し
 て—
 柏瀬 芳世・宮坂 松衛・伊達 実…………308(4)
 総 括……………清水健太郎…………311(4)
 Dr. Walker のこと—彼のもとで過
 した10か月—……………植木 幸明…………312(4)

〔脳浮腫・血液脳関門〕

- 血液脳関門(B. B. B.)について—特
 にその電子顕微鏡的検索……………石井 昌三…………357(5)
 脳浮腫の研究……………西本 詮…………363(5)
 脳浮腫の薬物療法—尿素を中心とし
 て—……………深井 博志…………367(5)
 脳浮腫・血液脳関門について……………三輪 哲郎…………374(5)
 脳浮腫の薬物療法—尿素, ステロイ
 ド, 低体温について—……………斎藤 義一…………379(5)
 低体温法ならびに高張尿素液の効果
 ……………宮崎 雄二…………382(5)
 経口的・非経口的投与 ^{82}Br の脳脊
 髄液への移行について

森 信胤・遠藤 英二・熊谷 祐二 関 孝慈・関 靖子……………	385(5)	……………島岡 安雄…	561(7)
硬膜外振動法による実験的脳浮腫作 製法とその治療 萩原 徹・有田 泰夫・中山 幸雄 押坂 担・黒岩 純・円満寺正通…	389(5)	精神医学よりみた脳の生理……………広瀬 貞雄…	567(7)
脳圧亢進時の急性危険症の実験的 研究 浅野 芳登・松岡 成明・田中 千秋 長谷川芳秀……………	391(5)	条件反射病理学……………林 謙…	568(7)
急性頭蓋内出血に対する尿素応用の 実験的研究 松岡 成明・田中 千秋・後藤 進 白浜 貫信・古賀 知章……………	395(5)	海馬損傷がネズミの行動におよぼす 効果……………	571(7)
組織学的にみた尿素的脳浮腫におよ ぼす影響……………橋本 義雄・浅井 昭…	401(5)	中脳中心灰白質刺激の辺縁系におよ ぼす影響……………原 俊夫・原 常勝…	575(7)
進加討論 東健一郎・他, 牧野惟義・他, 田章吾・他……………	386, 397(5)	家兎の EEG after Reaction の脊 現について……………川上 正澄・寺沢 瑩…	583(7)
総 括……………橋本 義雄…	401(5)	大脳側頭葉機能の実験生理学的研究 岩田金治郎・橋本 義雄・中島 典英 中島 正光・都守 淳夫・河合 雅雄 伊谷純一郎……………	589(7)
〔脳の生化学〕 条件反射による脳内アンモニアおよ びアミノ酸代謝の研究……………塚田 裕三…	453(6)	慢性うえこみ電極ネコおよびイヌの 脳波ならびに行動からみた精神 安定剤 Barbiturate, Mor- phine, の中枢作用および各薬 物間の質的異同について 山本研一・城戸良之助……………	591(7)
「条件反射による脳内アンモニアお よびアミノ酸代謝の研究」につ いて……………森 昭胤…	461(6)	視床下部を中心にした条件反射 伴 忠康・篠田 博之・塩谷弥兵衛…	609(7)
痙攣の生化学的研究 成瀬 浩・黒川 正則・秋元波留夫…	463(6)	討 論……………	549, 566, 569(7)
真性てんかん脳について……………森 昭胤…	471(6)	総 括……………時実 利彦…	619(7)
犬の脳髄より痙攣物質の抽出および その生理的作用 永井 一夫・大橋 正敏・亀田 務 堀江 港三……………	477(6)	〔脳腫瘍の病理〕 Exprimental Brain Tumors ……………H. M. Zimmerman…	637(8)
興奮物質および抑制物質の脳波に対 する影響……………上村 彰一…	479(6)	討 論……………所 安夫…	648(8)
犬の実験的てんかん症およびその痙 攣誘発について 栖原 六郎・高下 弘夫・青島 健 関 園子・渡辺 京子・伊藤東洋司 原 喜久江・三浦 きみ……………	481(6)	脳腫瘍の実験的研究……………川合 貞郎…	653(8)
実験的メチオニン・スルホキシミン てんかん……………佐藤 久…	483(6)	実験的脳腫瘍……………西川 喜作…	657(8)
計論および総括……………林 謙…	475, 482, 486(6)	膠芽腫の腫瘍組織およびその境界部 の電子顕微鏡学的研究……………小泉 準三…	663(8)
〔脳の生理〕 辺縁系と運動—特に解剖学的関係— ……………小池上春芳…	541(7)	髄膜腫 Meningioma の組織像につ いて……………稲葉 稔…	675(8)
条件行動の皮質下機構……………中尾 弘之…	551(7)	脳腫瘍におけ小脳の病変……………小宅 洋…	690(8)
神経生理からの一考察……………沢 政一…	557(7)	総 括……………伊藤 辰治…	695(8)
動物の状態と脳の電気活動—イヌの 海馬の電気活動を中心として— ……………鈴木 二郎・和田 徳男・成田 敦		Dr. Zimmerman の紹介……………植木 幸明…	695(8)
		〔脳腫瘍の臨床〕 脳腫瘍の臨床……………荒木 千里…	737(9)
		脳腫瘍の統計的観察……………佐野 圭司…	751(9)
		脳灌流法による脳腫瘍の化学療法 ……………竹内 一夫…	759(9)
		松果体部腫瘍の治療成績—特に照射 療法について— ……………植木 幸明・杉山 義昭…	767(9)
		悪性腫瘍の脳転移に対する手術経験 ……………矢作 保治・岩崎 隆…	771(9)
		脳腫瘍の内分泌……………西川 光夫…	775(9)
		脳腫瘍の内分泌……………沢田 公任・和田 徳男…	781(9)
		Craniopharyngioma の種々相 ……………鈴木 二郎・和田 徳男・成田 敦	

妹尾 博吉・沢田 公任・古和田正悦 笹生 俊一・原田 範夫……………	782(9)
脳室造影法について……………星野 列…	785(9)
脳下垂体部腫瘍に対する経鼻手術後の レ線像の変化とその予後との 関係 高橋 良・山崎 可夫・隠明寺 覚 樋崎 享・岡当 諄・笠原 行喜…	793(9)
定位的下垂体破壊法……………半田 肇…	799(9)
脳腫瘍—疾学的事項および診断上の 事項について—……………黒岩義五郎…	801(9)
頭蓋組織球症……………川淵 純……	805(9)
巨大な囊腫性頭蓋咽頭腫に対する鼻 腔ドレナージの効果 高橋 良・中尾 英雄・飯田 太 大森 一弘・磯部 房子……………	811(9)
肺転移を起こした松果体部腫瘍の症例 岩田金治郎・中島 典英・中島 正光 佐藤 秋子……………	815(9)
脳腫瘍の脳循環代謝……………齊藤 義……	819(9)
総 括……………田中 憲二…	826(9)
討 論……………	827(9)
〔頭部外傷〕	
重症頭部外症の急性期の諸問題について 工藤 達之・高山 禄郎・三河内薫丸 石森 彰次・宇賀神一夫・増田喜八郎 福田 栄・平井 秀幸・片山 勲 戸谷 重雄……………	897(10)
慢性硬膜下血腫の成因について…近藤駿四郎…	907(10)
頭部外傷の治療法の検討……………北村 勝俊…	913(10)
頭部外傷による血腫形成ならびに血 管損傷例の検討 西島 早見・榊原 幸雄・岡野登志郎…	915(10)
頭部外傷急性期の病態生理と治療に 関する二、三の問題……………光野 孝雄…	922(10)
頭部外傷の臨床—特に頭蓋内血腫の 診断と治療—……………菊地 貞徳…	925(10)
頭部外傷の診断, 特に髄液 GOT の 変動について 牧野 惟義・三輪 哲郎・原田 雅義 相馬 哲夫……………	929(10)
頭部外傷の二、三の問題 遠藤辰一郎・山田 敏雄・渡辺 岩雄 勝見 聰也・相崎 雄二・古川富士弥 阿久津 健・小野 満矩……………	930(10)
わが教室における頭部外傷の統計的観察 脇坂 順一・倉本 進賢・高木 繁幸 福田 俊一……………	932(10)
頭部外傷後遺症の脳波 沼本 満夫・奥村 修三・篠崎 有	

芦立 巖・半田 祐彦・梅田 昭正 貞本 和雄……………	937(10)
頭部外傷後遺症の脳波写と精神症状 との関連 田淵健次郎・花田 雅憲・岩本 信一 岡田 幸夫・浜名 康爾……………	941(10)
頭部外傷の病態生理について……森安 信雄…	944(10)
Neurovascular Friction の動物臨 床的観察……………清水健太郎・寺尾 栄夫…	947(10)
空挺降下による頭部外傷の研究 —(第3報)動物実験について— 堀之内宏太・谷村 憲一・細田 誠治…	951(10)
頭部外傷とヘルメット ……………小林 茂・片山 透…	959(10)
Megimide による脳波賦活—特に 頭部外傷を中心として— 石田 一夫・清水 隆・中島 喜夫…	960(10)
綜 括……………浅野 芳登…	964(10)
〔脳の血管性疾患〕	
脳血管障害の外科……………清水健太郎…	981(11)
脳の血管性疾患の外科的治療につい て……………半田 肇…	995(11)
追加討論……………橋場 輝芳…	1000(11)
脳の血管性疾患における脳血管撮影 の意義について ……………野村 隆吉・鈴木 一男…	1003(11)
脳出血の手術の適応について……椿 忠雄…	1009(11)
脳卒中患者にみられる頸動脈閉塞症 ……………竹内 一夫…	1015(11)
脳血管障害の発生ならびに抑制機序 に関する実験的研究 ……………相沢 豊三・長谷川恒男…	1023(11)
脳卒中発生機序に対する知見……加瀬 正夫…	1033(11)
総括……………荒木 千里…	1036(11)
〔低体温法〕	
脳外科領域における低体温法—特に 脳血行—時的遮断に関する諸問 題……………橋場 輝芳…	1069(12)
追加(1)……………千葉勝二郎…	1079(12)
追加(2)……………牧野惟義・他…	1080(12)
低体温時の新・旧・古皮質系の電氣的活動 吉岡 真澄・加藤 茂・川村 浩 山本 研……………	1083(12)
低体温下における脳幹部血流動態の研究 高山 祿郎・宇賀神一夫・増田喜八郎 福田 栄・平井 秀幸・片山 勲 戸谷 重雄……………	1093(12)
脳外科における低体温法……………徳岡 俊次…	1096(12)
治療的低体温法的作用機序および治 療効果について	

近藤祐之・坂本 宏	1099(12)
治療的低体温法	福山 敏彦 1103(12)
脳外科における低体温法の研究	
ト部美代志・山本信二郎・坪川 孝志	
宮永 盛郎・菊地 誠・角家 暁	
向永 光・太田 陽一・関 征夫	1104(12)
頭部外傷に対する部分体外補助循環による急速冷却の実験的研究	
中山 耕作・黒田 晃司・山本 勲	
伊野 照子・今野 草二・田中 亮	1107(12)
体外循環による低体温麻酔の脳外科への応用について	
山本 勝美・牧野 博安・矢沢 知海	
山野 徳男・田宮 達雄・牧 豊	1121(12)
脳腫瘍手術における人工冬眠法の応用	
魚住 徹・北川 晃・宮崎 正夫	
松岡 健三・実川佐太郎・武田 義章	1124(12)
脳外科領域における低体温法	鈴木 二郎 1127(12)
総括	柱 重次
植木 幸明・荒木 千里	1131(12)
〔総説・展望〕	
脳外科に就て	中田 瑞穂 121(2)
脳組織の Autoxydation とその脳病理学および臨床上の意義	飯塚 礼二 405(5)
〔研究〕	
鞍部附近に対する経側頭葉接近の方法	鈴木 二郎・古和田正悦 165(3)
正常人における Minor Tremor と脳波の周波数分析の比較的研究	山内 育郎 169(3)
気脳撮影時における Autotomography	原 一夫・藤野 保定・善成 務 179(3)
頸腕障害の知覚障害像	泉田 重雄・田辺 雅久 183(3)
ポーラログラフィーならびに汙紙電気泳動法による血清蛋白質の季節的変動	木住野幸二・倉石 文雄・植松 宗悟 鶴岡 孝人 343(4)
日本全国および東京都における頭部外傷の統計的観察	畠中 垣 413(5)
持続睡眠療法に伴う Minor Tremor の変化—Minor Tremor の反応と治療効果との関連—	稲永 和豊・石橋 明 489(6)
脳血管連続撮影における若干の経験について	松原 敏夫・野村 隆吉 497(6)
大槽内薬物注入と消化管運動の実験的研究	中村 武・山本 勝美・牧野 博安 広田 和俊・高橋 康・平島 毅 500(6)

発熱状態の発作発射 (Seizure Discharge) におよぼす影響についての電気生理学的研究	柏瀬 芳世 698(8)
髄液電解質ならびに蛋白質の部位的差位について	青木 典太・矢吹 天司・鈴木 浩二 倉石 文雄・植松 宗悟・鶴岡 良人 木住野幸二 1041(11)
高血圧性脳出血の診断および早期手術に関する知見	堤 裕 1135(12)
〔症例〕	
中間神経痛の1例	都留美都雄・高村 春雄 129(2)
脊髓空洞症様症状を呈した延髄脊髓腫瘍の1例	里吉宮二郎・渡辺 到・松山 春郎 西山 保一・熊谷 通夫・黒川 光 191(3)
脳室出血を伴う脳溢血の1手術治療例	金谷 春之・小島 一夫・光野 孝雄 197(3)
脊髓小脳性遺伝性運動失調症の2例	前田 徹・三隅 博・宮崎 幸雄 副島 林造・松本 卓司 205(3)
パーキンソン氏病の1剖検例	野木 一雄・津村 明子・田村 和也 213(3)
脊髓麻痺を遅発した Klippel-Feil 症候群例	富田 恭弘 219(3)
同胞間に発現を見た神経性進行性筋萎縮症(Charcot-Marie-Tooth) の3例について	上村 紀元・飯田 光男 505(6)
Primitive Trigeminal Artery (Carotid-Basilar Anastomosis) の1症例について	下奥 仁・松野千枝子・二宮 淑子 安井多津子 513(6)
いわゆる下垂体胎児性腺腫—その組織学的研究—	福光 太郎・景山 直樹・笹部 哲哉 829(9)
脳内細網肉腫の1手術例	高垣 衛・青柳 庸三 835(9)
3歳の幼児に発生した後頭蓋窩髄膜腫	矢田 賢三・都留美都雄・川口 進 839(9)
右前大脳動脈閉塞症を合併した上顎癌の1剖検例	鈴木 宗治 845(9)
赤血球増多症を伴った小脳血管腫の1例について	森安 信雄・佐藤 公典・藤井 寅夫 森田 幸雄・中村 三郎・長嶺 博 1155(12)
〔治療〕	
てんかん痙攣発作に対する Dilantin	

Sodium 非経口的投与の効果	
深井 博志・渡辺 三郎・中井 昂	
佐藤 進	67(1)
γ -Amino- β -hydroxy butyric acid	
の使用経験	
野村 章垣・佐野 新・高木恒太郎	
大原健士郎・岩崎 功三・川尻 徹	
西田 健二・巽 研三・野崎 次郎	
桜井 穰	135(2)
Chlordiazepoxide の治療経験	西山 昭夫 141(2)
てんかんに対する Chlordiazepoxide投与	
による脳波像の変化について(第2篇)	
児玉 久・武村 一郎・高橋 光	
信藤 弘	223(3)
精神科領域における Chlordiazepo-	
xide の使用経験	
近藤 重昭・坂本 玲子・斉藤 浩哉	
福田 一彦・内田 正名	231(3)
1-Acetyl-3-phenylethylacetylurea	
の抗てんかん作用について	
田椽 修治・後藤 蓉子・徳田 良仁	
新井 進・関場 一恵・成田 四郎	315(4)
新しい抗てんかん剤 Acetylphene-	
turide P-3981 の使用経験	
森 温理・赤羽 晃	323(4)
難治例に対する新抗てんかん剤 P-3981	
の臨床治験	
和田 豊治・後藤 昭・吉田 偕迺	329(4)
抗てんかん剤 P-3981 の臨床使用経験	
高坂 陸年・森定 諱・小林 潤三	
藤田 昭二	335(4)
精神疾患に対する Trimeprazine	
の治療効果	
島蘭 安雄・中川 允宏・川田 行雄	429(5)
Procyclidine を中心にした抗パー	
キンソン剤の検討	
中沢 恒幸・笠原 俊彦・小宮 英靖	435(5)
うつ状態に対する Chlorprothixene	
の使用経験	
保科 泰弘・野崎 央・田宮 崇	519(6)
新抗てんかん剤 TAE-13(Glutarimide	
derivative) の使用経験	
和田 豊治・福島 裕	523(6)
うつ状態に対する Chlordiazepoxide,	
Isocarboxazid 併用療法	
桜井図南男・西園 昌久	622(6)
Tetrabenazine の精神分裂病に対	
する使用経験	
清水順三郎・井上 敏・山崎 英雄	
佐藤 壱三	717(8)

新抗てんかん剤 Ospolot の治験成績	
和田 豊治・桜田 高・本間 定子	851(9)
Trinuride 錠による てんかんの治	
療経験	
丸山 弘毅・金田 良夫・宮坂 松衛	858(9)
Chlordiazepoxide の使用経験について	
桜井図南男・白藤 美隆・新垣 元武	867(9)
てんかんと利尿剤(1)特に炭酸脱水素	
酵素抑制剤を中心に	
中沢 恒幸・富永 淳・笠原 俊彦	
川添 勇	1049(11)
N-(4'-Sulfamyl-phenyl)-butansul-	
tam-(1-4) (Ospolot) のてんか	
ん治療に対する効果	
田椽 修治・後藤 蓉子・新井 進	
徳田 良仁・小田原耕三・平井 満夫	1161(12)
〔カンファレンス〕	
神経病理カンファレンス(10)~(12)	
慶応義塾大学医学部	
149(2), 238(3), 531(6)	
〔随 想〕	
脳外科の昔話(1)~(4)	中田 瑞穂
723(8), 875(9), 968(10), 1057(11)	
〔書評〕	
野村隆吉著「脳血管レントゲン図譜」	
佐野 圭司・黒岩義五郎	16(1), 38(1)
H. Finkemeyer 著「Das Glioblastom	
in den verschiedenen Hirnre-	
gionen Beitrage zur Neuro-	
chirurgie (Heft 3)」	喜多村孝 373(3)
R. L. Friede 著「A Histological Atlas	
of Tissue Oxidation in the	
Brain Stem of the Cat」	草間 敏夫 517(6)
G. D. Chiro 著「An atlas of detailed	
normal pneumoencephalo-	
graphic anatomy」	森 温理 1092(12)
〔学会抄録・印象記・ニュース〕	
第4回脳機能生化学班協議会報告	
塚田裕三・他	242(3)
第1回国際定位脳手術シンポジウム	
西本 詮	73(1)
第2回国際脳神経外科学会総会	佐野 圭司 153(2)
インド神経学会に招かれて	橋本博太郎 236(3)
第7回国際神経学会に出席して	沖中 重雄 444(5)
神経放射線懇話会の記	加藤 俊男 729(8)
カリフォルニア大学脳研究所につい	
て	山口 成良 881(9)
第30回 Harvey Cushing Society	
Meeting の印象	宮崎 雄二 886(9)